

市進学院

配点 大問1 10点 大問2 10点 大問3 24点 大問4 36点 大問5 20点

設問ごとと分析

問題分析

講評

1,2 諮る・定款・補填など語彙の幅を広げる練習が必要。

多くの読書量により語彙力を増やすことが、高得点をとるためには必須。

4 戸谷洋志「SNSの哲学」

昨年に引き続き、「哲学」分野の文章。「SNSは最適化のアルゴリズムに支配

されているが、現実世界では予見不可能な偶然性がある」ことに関する文章。
作文の題「バルグソンは記憶に宿る時間の在り方を『持続』と呼んでいるが、筆者の
主張を踏まえて、あなたが実感した『持続』の経験について200字以内で書け。

5 川本皓嗣「俳諧の詩学」

設問自体は平易。形式に慣れることが重要。時間配分はしっかり考える必要あり。

配点 大問1 25点 大問2 25点 大問3 25点 大問4 25点(記述3題)

設問ごと分析

問題分析

講評

昨年とほぼ同じレベル。取るべき問題をしっかりとることが重要。
得点すべき問題 大問1 1・2・3・4 大問2 全て 大問3 1・2

1 小問=易しいと思いがちだが、今年であれば問3データの活用・問4の確率と問5の作図は、易しくはないので、ここで焦らないことが必要。

2 関数の典型的な出題が多く、きっちり得点したい。

問3 座標を文字で置き、方程式に持ち込む典型的なパターン。

3 正方形・正三角形の平面図形からの出題。証明は今年は易しかった。

問3は私立でよく出されるパターンだが、慣れていないと難しく感じる問題。

4 例年通り空間図形からの出題。今年の間3は、条件を満たす点を作る

図形の面積を求める問題だが、どういう形になるのかのイメージも難しく難易度が高い。展開図がヒントになっている。

配点 大問1 20点 大問2 40点 大問3 40点

設問ごと分析

問題分析

講評

語数が大問2・3合わせて昨年より約500語増えた。速読する力が必要。
形式にも若干変化がみられる。他の自校作成校の過去問も練習するとよい。
I BのQ2の正答率が低い。単語スペルミスや冠詞の用法の誤りに注意。

2 「効果的な学習方法」に関する対話文

今年是他校でよく言出題される「イラストを選択する問題」が出題された。

問10の内容一致問題の選択肢は他校と同じ形式になり、時間がかかる。

3 物語文 ハワイに短期留学した少年が、言葉の壁にぶつかりながらも、ホストファミリーとの交流を通じて自信を取り戻す話。

比較的読みやすい。意味の知らない単語は会話の流れから考えていくこと。

※網掛けが濃い設問は記述の設問です。

難易度の標記 A: 易しい(全問正解したい) 目安→正答率80%以上

B:標準(落とせない)目安→正答率79~60%

C: やや難問(合否を分ける問題) 目安→正答率59~40%

D:難問(1問でも出来れば良し)目安→正答率39~11%

E:超難問(できなくても気にしない)目安→正答率10%以下